

防災×河合地区社協 福祉委員が防災訓練で安否確認

川合鷲塚町（河合地区）では、6月22日（日）に開催された市総合防災訓練に合わせて、福祉委員が町内のひとり暮らし高齢者の安否確認を行いました。

きっかけは、令和6年2月、災害時の対応がスムーズに行えるように、地区社協と自主防災会役員、公民館職員が集まった情報交換。その中で「自治会単位で安否確認の訓練ができるといい」という声が挙がり、今回の訓練につながりました。

1 安否確認

福祉委員の毛利純子さんは3人のお宅を訪問。「訓練ですが、一緒に避難所に行きませんか」と声をかけます。



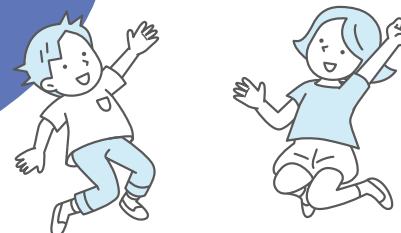
一緒に避難された毛利さんは、「誰かと一緒に行動するのは心強かった。この先、年を重ねると一人で避難できるかは分からないし、近所のつながりを大切にしていきたい」と話していました。福祉委員の毛利さんは、「訓練がきっかけでお話しできた方もいてよかった。ひとり暮らし高齢者も増えていくので、地域住民みんなで声をかけ合うことが必要だと感じました」と語ってくれました。

〇〇×地区社協 地域の課題解決に向けた活動紹介！

地区社協は、市内49の住民にいちばん“誰もが安心して暮らす”を目指して活動。そんな地区社協が、それぞれ行っている取組み



小学校区ごとにあり、近い場所で“ことができるまちづくり”をしています。地域の課題にあわせてを紹介します。



2 避難行動

一緒に一次避難所の川合鷲塚集落生活改善センターへ歩いて向かいます。



3 避難完了

避難所に到着。一緒に受付をしました。



ふだんの見守りや顔の見える関係づくりが、いざという時の災害対応につながります。市社協では、地区社協の活動に“防災”の意識もちょこっとプラスしていただき、自治会や防災関係者等と連携した地域づくりがすすめられるよう応援していきます。

こども食堂×日之出地区社協 食を通して多世代のふれあいを

日之出地区社協(以下、地区社協)のみなさんが、7月26日（土）に開催された日之出ふれあいフェスタ内の地区社協のブースとして、こども食堂を開催しました。

これまでこどもと関わる事業を十分にできなかったという思いもある中で、住民から「地区社協でこども食堂をできないか」という声があり、まずはチャレンジしてみようと開催を決めました。一方、「こども食堂ってどんなもの?」といった声もあり、特定のこどもたちのためだけに行うのではなく、広く大人もこどももふれあえるきっかけにしようと決めて取り組んだそうです。

当日は約150食のカレーライスを中学生以下のこどもたちに無料で提供し、大盛況となりました。こどもたちからは「美味しい、最高!!」「来年もまたやってほしい」といった感想が聞かれました。保護者の方からも「地区社協がこんな活動もしていることを初めて知った」という声が聞かれ、地区社協を知ってもらうきっかけにもなったようです。



本番は大盛況!!
フル回転でカレーを提供です



カレーを楽しむこどもたち
親子連れの姿も目立ちました

こども食堂って?

色々な人が一緒に食事や交流を楽しむ地域の居場所の一つです。こどもに限らず、様々な年代の方が参加している場合も多く、定期的に開催したり、イベント内で開催したりと、地域や参加者に合わせて自由な形で開催されています。

☕「きまっし能登カフェ」を開催しました!☕

7月27日（日）、福井市民福祉会館で「きまっし能登カフェ」を開催しました。この催しは、令和6年の能登半島地震により、現在福井県内のみなし仮設住宅で暮らす方々やそのご家族が相談や交流できる場をつくろうと、石川県の委託を受けて市社協が企画したものです。

当日は、福井市で暮らす珠洲市出身の2世帯3名が参加されました。会のはじめには、運営スタッフも交えてみんなでランチを囲みながら談笑しました。会場には石川県職員による相談や



看護師による健康相談、アロマセラピストによるハンドマッサージなどのコーナーを用意。ランチの後は、思い思いに過ごしていただきました。

会の締めくくりにはオカリナサークル「しろたんズ」による生演奏も楽しんでいただきました。

参加者同士が珠洲市での思い出を語り合う場面もあり、「珠洲の人と話せてよかった」「相談できて目の前が明るくなった」との声が寄せられました。

今後も、市社協では能登の方々に寄り添う活動を進めていきます。



◀生活の困りごとについて相談



▲看護師による健康相談

◀ハンドマッサージでリラックス